

学校法人佐久学園



佐久の薰風

No.19

2023(令和5)年11月30日発行

発行人 学校法人佐久学園

編集人 佐久大学広報委員会

印刷 株式会社アオヤギ印刷

<https://www.saku.ac.jp/>

CONTENTS

特集／2023 国際看護論 ……2

中国語スピーチコンテスト出場 ……2

Topics／社会連携・研究支援センター ……3

中国浙江省衢州職業技術学院との共同教育事業 ……3

CAMPUS MEMORY「先輩に聴く」 ……4・5

シリーズ・研究室探訪 ……5

キャンパスピックアップ ……6

新任者紹介 ……6

大学祭(秋桜祭・信陽祭)開催! ……7

看護学部1年次生が「長野県知事との県民対話集会」で提案しました! ……7

オープンキャンパス2023開催報告ほか ……8



2023 国際看護論

佐久大学看護学部では、4年次の選択科目として「国際看護論」があります。本科目では、国際的な視点から諸外国の健康問題および心身の健康に影響を与える社会・経済、教育、および文化・伝統的な考え方等の背景を検討しつつ看護活動のあり方を学び、広い視野を持って多文化共生社会の中で看護を実践できることを目的にタイ、チョンブリ県サンスク町にある国立ブラパ大学看護学部で海外演習を実施しています。2020年以降、COVID-19感染拡大の影響を受け、海外演習は中止していましたが、昨年度から渡航日程を短縮し再開、今年度はCOVID-19以前と同様の演習日程(2023年8月22日～8月31日)で実施し、4年次生14名が参加しました。

10日間の研修では、タイの看護教育や母子保健、高齢者ケアについての講義を受け、国立ブラパ大学病院や私立サミティバート病院、公立高齢者福祉開発センターなどといった一次から三次までの医療施設の見学、Ban Banglamung Social Welfare Development Center(養老院)や、障害者カレッジなどの地域で特色ある施設見学、サンスク町保健師に同行して家庭訪問(高齢者の在宅ケア、産後ケア)を行いました。

学生はタイの保健医療の状況について、様々な施設を見学していく中で日本との類似や違い(医療専門職の配置不足、ITを活用したケアの実践、入院施設のプライバシーへの配慮、産後ケアの違い等)について学びを深めていました。学生が最も印象に残ったのは、「Camilian Social Center/ HIV/AIDSセンター」でした。HIV/AIDSについてこれまでの生活の中であまり身近でなかった学生でしたが、司教の話や施設見学を通して、人間の尊厳や人権、偏見への問題など多くのことを考える機会となりました。学生は、「日本でも偏見や差別は少なくない。その人を受け入れ広い視野を

持つことが大切であると気づかされた。」と振り返り、正しい知識を学ぶことや予防教育の必要性を学んでいました。

研修を通して学生は、「日本の看護を学ぶだけでは気づくことのできない視点を得ることのできる貴重な研修であった。」「その国や地域で暮らす住民の生活に目を向けて理解することは、医療体制の整備や病院の機能・役割を考える上で重要である。」と10日間の研修を振り返っていました。

タイの保健・医療・福祉システムや看護、看護教育について学び、施設見学やタイの医療従事者の方をはじめとした多くの人達と関わったことで、国際的な視野を持ったことはもちろん、改めて自身の看護や卒業後の看護職としてのキャリアも考えることができ、充実した10日間の海外演習となりました。

最後に、今回の研修で連日対応してくださいましたブラパ大学看護学部の学部長をはじめ教職員の皆様にご感謝申し上げます。また、ブラパ大学看護学部の学生も課題や実習等で忙しい中でしたが、たくさんの思い出と同じ看護職を目指す仲間としての交流ができました。学生にとっても大きな財産となったことでしょう。

「微笑みの国」タイの皆様のたくさんのおもてなしの心に感謝いたします。ありがとうございました。



授業で学んだ中国語の成果発表として ～中国語スピーチコンテスト出場～



子ども福祉専攻2年
新海咲歩さん

10月21日(土)、長野市の信濃教育会館にて、長野県日中友好協会ラジオ孔子学堂主催による「第41回全日本中国語スピーチコンテスト長野県大会」が開催され、高校生・大学生・一般の中国語学習者が集まり、発音や表現力を競いました。

本学短期大学部からは子ども福祉専攻2年次生の新海咲歩さんが、授業を通して学んできた中国語の成果発表と今後の質の向上を目指し、朗読部門「大学生・大学院生の部」に出場しました。当日は緊張しながらもまっすぐ前を向いて堂々と朗読し、見事2位に輝きました。

新海さんは「中国語を学んでいる幅広い世代の方々と交流ができ、とても貴重な体験をすることができました。」と振り返り、中国語学習の意欲がますます高まっていました。



社会連携・研究支援センター

社会連携部門

国際交流部門

研究研修部門

Topics

トピックス

【研究研修部門】

喀痰吸引研修(9月～11月)

施設や在宅でのたんの吸引は医療行為となるため、通常、介護職では対応できませんが、所定の喀痰吸引研修を修了することで、介護福祉士または介護職員が、たんの吸引を行うことができます。

佐久大学では、研修を行う機関として県に登録し、毎年「喀痰吸引研修」を行っています。



【国際交流部門】

国際交流フェスティバル(9月3日)



佐久地域在住の世界の国々の皆さんが一堂に介し、交流・体験することで、相互理解あう「国際交流フェスティバル」に参加しました。輪投げを楽しんでいただきながら、映像やパネルを展示し佐久大学の国際交流活動を紹介しました。

海外研修の受入れ(タイ、台湾、エジプト)

JICA「タイ草の根ヘルスケアプロジェクト」、日本台湾交流協会「台湾介護研修」、エジプト大使館「エジプト看護管理研修」などに加えて、本学とMOU(学術交流協定)を結んでいる台湾台北護理健康大学の学生海外研修など、今年度は毎月1団体以上、海外からの学生や研修生の受け入を行っています。



【社会連携部門】

公開講座

佐久大学では、毎年、市民の皆さんが心身ともに健康にお過ごしいただくため、市民向けの公開講座を行っています。今年度の共通テーマは「生きづらさを越えて」。10月7日(土)には、第1回の講座(テーマ「みんなの力で認知症を乗り越えよう」)を行いました。たくさんの方に受講いただき、多くの質問が寄せられるなど、関心の高さが窺えました。第2回は12月9日(土)、講師は本学人間福祉学部 狩野徹教授、第3回は12月23日(土)、聖路加国際大学大学院 瀬戸屋希教授です。



第1回公開講座
講師:本学人間福祉学部
島田 千穂 教授



公開講座 詳細情報はコチラ

SAKUメッセ(9月21日～23日)

《足育(あしいく)》

佐久大学が共同開発した「足裏測定装置(フットプリンター)」で、約220人の足を測定し、印刷した“足型”をお持ち帰りいただきました。当日来場された市内中学校の校長先生から、足育に関する出前講座のご要望をいただき、過日、約300名の中学生に対して、足育の出前講座を行いました。

ぞっこんさく市!(9月30日～10月1日)

毎年大勢の来場者で盛り上がる「ぞっこんさく市!」では、足育の一環で本学が所有しているフットダーツで多くの皆さんに楽しんでいただきました。



中国浙江省衢州職業技術学院との共同教育事業 堀内ふき学長中国訪問



中国では、高齢化が進む中で質の高い介護専門力を持つ看護師を育成して、医療福祉介護環境を充実させる教育プログラムを始めており、浙江省衢州市の職業技術学院では、中国教育部の認可を得た中国初の医療系教育の共同教育課程を設置し、佐久大学と連携協定を結び、この10月から新課程が正式にスタートしました。1年生の中から選抜された68名が、看護教育課程だけでなく、日本の介護専門科目も勉強します。7年間の大プロジェクトとなる事業です。10月下旬には、本学の堀内ふき学長と王珠恵客員教授の2名が現地を訪問し、開講式と初回講義を行いました。



中国での開講式

CAMPUS MEMORY

「先輩に聴く」

本学を卒業した先輩方に学生時代の思い出と今の仕事について語っていただきました。



望月 環さん

2019年度 大学院看護学研究科 修了
JA長野厚生連 人材確保対策室 室長
(認定看護管理者)

現在は、長野県厚生連の本部で県内厚生連全体の人材確保・育成、看護部全体の統括的な役割を担っています。変化する社会環境を踏まえた組織運営は難しさもありますが、やりがいがあります。

大学院では、現状分析や自身の考えを俯瞰的に見るための情報収集能力、それを伝えるための構成や文章力など得ることができました。現職位においてさまざまな提案をする中での検討過程に大きく生かされています。

修了までに少々時間を要しましたが、先生方には根気よく支えていただきました。活躍することが一番の恩返しと思い、今後も努力を続けたいと思います。



永井 陽菜さん

2022年度 看護学部卒業
坂城町役場 保健師

現在は、坂城町の保健センターで保健師として勤務しています。業務は母子保健、成人保健、精神保健、感染症関係、地区担当支援など、幅広い事業に関わらせていただいています。日々、事業に参加したり、住民の方からの相談・問い合わせに対応したりと、大変ではありますが学びの多い毎日です。

学生時代では、保健師課程の課題をああでもないこうでもない毎日閉館時間まで頑張って取り組んだことが印象的です。山のような課題や実習も、みんなで励まし合いながら乗り越えたことを考えると、充実していたなぁと感じます。



関沢 理水さん

2021年度 別科助産専攻卒業
長野県立こども病院 産科病棟 助産師

長野県内唯一の総合周産期母子医療センターに勤務しています。ハイリスク周産期、周術期看護や、様々な社会的背景、価値観を持つ患者さんの意思決定支援など、生と性に密に関わる役割には大変なことも多くありますが、経験豊富な先輩方に助言をいただきながら、お母さんと赤ちゃんの安心安全を支援するのは、とてもやりがいのある幸せな日々です。そして、学生時代の課題や実習で学んだ基礎と、励まし合い乗り越えた仲間との思い出、先生方からの言葉が支えになっています。今後も初心を忘れずに、助産師としても、人としても成長できるよう頑張っていきます。



飯田 一輝さん

2022年度 看護学部卒業
諏訪中央病院 看護師

試験や実習など辛い時も仲間たちと助け合い、励まし合い乗り越えた日々は私にとってとても大切な思い出であり、社会人になった今でも辛い時を乗り越えるための糧になっています。そして、辛い時も側にいて支えてくれた仲間の大切さを痛感しました。皆さんも辛い時に助け合える仲間を作り学生生活を楽しんでください。

現在、諏訪中央病院の4階西病棟で看護師として勤務しています。4階西病棟はレスパイト入院と看取り方針の患者様が入院されている病棟です。人工呼吸器装着患者へのケア、看取りに向けた患者・家族へのケアなど新たな学びが多く日々勉強になります。



樋澤 葉月さん

2022年度 看護学部卒業
鹿教湯三才山リハビリテーションセンター 看護師

学生時代は多くの友人たちに支えられながら、学生生活を謳歌しつつ、座学から実習までをなんとか乗り越えていました。アルバイトを掛け持ちしたり、遊びに出かけたりと楽しい思い出も多くあります。

現在は、指定療養介護事業所で看護師として働いています。少し特殊な病棟のため、疾患と治療の勉強とより個別性に合わせた看護が必要になり、大変なことも多いですが頼りになる先輩方や同期に支えられて奮闘する毎日を送っています。

国家試験も大切ですが、働き始めてから本当に大切になる知識も多いです。仲間と学生生活を謳歌しつつ、身になる学習を頑張ってください。



春原 千歩さん

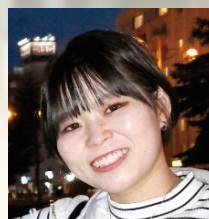
2022年度 子ども福祉専攻卒業
小雀保育園 保育士

短大の子ども福祉専攻では、一期生ということもあり伸び伸びと仲間と先生方と楽しく過ごしていました。

特に、先生方がとても話しやすく何か心配があればとても親身になって話を聞いてくれ、時には一緒に遊んで楽しんだり、仲間のような関係で過ごすことができました。

現在は、地元の保育園で働いています。楽しいこともあれば、もちろん大変なこともあります。先輩の保育士さんの言葉や学生生活でのことを思い出しながら頑張っています。まだまだ分からないこともあり悩むことも多いですが、子ども達が笑顔で私に話しかけてくれることが元気の源になっています！

皆さんも、思う存分学生生活を子どもに戻ってたくさん楽しんでください！



渡辺 陽香さん

2019年度 介護福祉専攻卒業
丸子中央病院 介護福祉士

短期大学在学中、認知症ケア准専門士を取得しました。今年は、認知症ケア専門士の試験にも合格しました。資格を持つことで、自信をもって現場に立つことができています。

施設生活の不安を取り除き、心に寄り添ったケアを目指しています。また、ニーズに合った最善のケアができるよう、多職種でのケアにつなげています。

学生当時、苦しい記録物の多さに意気阻喪していました。しかし、記録に大切な視点や文章の作り方が身につきました。今では、上司に評価されることが多く、自分の強みになっています。

短大生活の学びは必ず将来の糧になります。2年間で大きな学びを得られるよう、応援しています。

シリーズ・研究室探訪 5 小山秀夫研究室



人間福祉学部
教授 小山 秀夫

専門研究分野は、医療・介護マネジメントです。大学院ではSocial Policy and Administration を専攻しました。主に社会保障、医療保険、社会福祉、公衆衛生、社会福祉施設管理、社会調査の専門的トレーニングを長年受けました。28歳で厚生省病院管理研究所（現在の国立保健医療科学院）の研究員に採用され本格的に病院管理の研究に従事した関係から医療・介護マネジメントの教育研修を行うことになりました。その一方で、老人保健施設、訪問看護、介護保険における要介護認定などのシステムの実装の作業を実施しました。

現在の研究テーマは、介護経営の諸課題解決のための技法開発研究、認知症とともに生きる人々への非薬物療法の実装研究、口腔・リハビリテーション・栄養の一体的取り組みに関する調査研究です。第1の介護経営については、介護人材の確保と介護マネジメントの徹底がテーマですが、来年の日本介護経営学会の大会長として準備中です。第2の認知症関連では、幸い「産医連携拠点による新たな認知症の創薬標的創出(EKID)」の『認知症対策としての研究開発状況に関する調査(研究代表 三浦公嗣)』のメンバーに加えていただいています。来年3月リスボンでの2024 Alzheimer's & Parkinson's Diseases Conferenceに参加予定で準備を進めています。第3の一体的取組では、その実効性を向上させるために最も重要なことは、各職種からなる人々をチームビルディングし、カンファレンス等を通じて、協働目標を設定し、一元化された計画を作成することです。実施計画書はそれを担保する書式になっていることが必須です。個別領域として他の領域の担当者と共にすべき内容はすべて実施計画書に記載することを求められます。このような取り組みを実装するため診療報酬や介護報酬改定の政策課題として、一般社団法人日本健康・栄養システム学会の調査研究事業に参加しています。

これらの研究は全てチームによって推進されていますので、各研究者との意思疎通、イシューの決定、研究企画、実証調査実施、政策提言、専門人材の育成、政策評価を含みます。研究がまとまって、システムとして実装されることは研究者冥利に尽きます。

- 5/3・4 ● 佐久バルーンフェスティバル出展
5/13 ● オープンキャンパス
5/14・6/11・8/20 ● 地域母子保健(パパママ教室)
5/15 ● EBN実習Ⅰ開始
2年次生
5/19 ● CBL実習Ⅰ開始
1年次生
5/27 ● 地域生活者交流実習Ⅰ開始
1年次生
5/30 ● 介護実習Ⅲ開始
介護福祉専攻2年次生
5/31 ● ナーシングセレモニー
2年次生



- 6/1 ● 福祉施設実習Ⅰ開始
子ども福祉専攻2年次生
6/3 ● オープンキャンパス
6/5 ● 大学院進学相談会
● プライマリケア看護学実習Ⅰ開始
プライマリケア看護コース2年次生
6/8 ● EBN実習Ⅱ①開始
2年次生
6/26 ● 看護総合実習開始
4年次生
6/13・20 ● 韓国 保健福祉部来学



- 7/1 ● 佐久大学ボランティア・アクションセンター開設
7/7 ● 佐久平総合技術高校からひつじ受け入れ
7/7・8 ● 佐久長聖高等学校文化祭出展
7/8 ● 導入基礎演習発表会
1年次生
7/10 ● プライマリケア看護学実習Ⅱ開始
プライマリケア看護コース2年次生
7/15 ● 小海高等学校文化祭出展
7/19 ● 塩尻志学館高校大学見学受け入れ

- 7/22 ● オープンキャンパス
8/9 ● ソーシャルワーク実習開始
3年次生
8/19 ● オープンキャンパス
● 大学院進学相談会



- 8/22~31 ● 国際看護論 海外(タイ)演習
4年次生
8/25 ● 丸子修学館高校大学見学受け入れ
8/28 ● 立誓式
介護福祉専攻1年次生
● 介護実習Ⅳ開始
介護福祉専攻2年次生
● 保育所実習Ⅱ開始
子ども福祉専攻2年次生
8/29 ● CBL実習Ⅱ開始
1年次生
● 介護実習Ⅰ開始
介護福祉専攻1年次生
8/31・9/1 ● 小児看護学実習 幼稚園・保育園実習
3年次生
9/4 ● 助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ開始
9/11 ● 領域別看護学実習開始
3年次生
● 地域看護学実習開始
4年次生
9/21~23 ● SAKUメッセ出展
9/23 ● オープンキャンパス



- 9/30~10/1 ● ぞっこんさく市! 出展
10/1 ● 長野県知事との県民対話集会
1年次生3名参加
10/11 ● ケアワーク演習・実習開始
2年次生
10/21・22 ● 佐久ハーフマラソン記念イベント出展
10/22 ● 佐久平総合技術高校へひつじ返却
10/28・29 ● 大学祭(秋桜祭・信陽祭)

新任者紹介 (2023年9月1日付着任)

①担当領域 ②出身地 ③出身校 ④趣味 ⑤自己PR



看護学部助手 竹内美紀

- ①母性看護学
②群馬県
③信州大学

- ④旅行
⑤母性看護の楽しさを伝えていきたいです。教育・研究において学びを深め、成長できればと思います。

大学祭(秋桜祭・信陽祭)開催!



2023年10月28日(土)、10月29日(日)に大学祭を開催しました。

今年度のテーマ「繋～つなぐ～」には、学部や学年の異なる学生同士はもちろん、地域の方々にも参加いただき交流することで、コロナ禍の前のように繋がれるようにしたいという思いを込めました。

今回初の試みとして、大学祭を学内日と一般公開日とに分け、2日間開催しました。1日目は学生のみでバレーボール大会と謎解き大会を開催し、大いに盛り上がりました。テーマに掲げたとおり、学部や学年を超えて繋がることができました。2日目は一般公開とし、小雀保育園鼓笛隊や佐久人権擁護委員協議会、青木村義民太鼓など、地域の方々によるステージ発表やキッチンカーの出店、献血の実施、そして、たくさんの皆様にご来場いただいたことで、地域と佐久大学・佐久大学信州短期大学部との繋がりもできたと思います。また、閉祭式では、盛大な花火を打ち上げ、感動のうちに締めくくることができました。

4年ぶりの一般公開ということで、不安なことや、想定外のことも数多くありましたが、実行委員のメンバーを中心に協力し合い、また、多くの方々のご支援のおかげで無事終えることができました。大学祭開催にあたりご協力いただきましたすべての方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

佐久大学・佐久大学信州短期大学部
大学祭実行委員会

看護学部1年次生が「長野県知事との県民対話集会」で提案しました!

2023年9月3日(日)にあいとびあ白田で開催された「第25回国際交流フェスティバル in 佐久 2023」において、『地域生活者交流実習Ⅰ』の授業の一環として看護学部チューター1グループ所属の1年次生9名がブース展示を行いました。展示内容は自分たちが『導入基礎演習』で考案した「育児期間中マーク」と「性別役割意識払拭の体験型施設」であり、それを視察した柳田佐久市長から県民対話集会への出席を依頼されました。

2023年10月1日(日)には、佐久市市民創錬センターで開催された「長野県知事との県民対話集会」に学生3名が参加し上記の提案を行いました。阿部知事からも高く評価され、長野県に育児期間中マークを導入するために協力して欲しいとの申し入れがありました。今後、長野県と調整していくことになります。

看護学部1グループチューター 諏訪 達彦
征矢野文恵
吉田 文子



オープンキャンパス2023 開催報告



佐久大学では、5月から9月にかけて、計5回のオープンキャンパスを開催しましたが、いずれの日程も多く的高校生や保護者の皆さんにご参加いただきました。当日は、各学部の紹介や模擬授業、キャンパスツアー、ランチ体験など、大学の雰囲気を感じていただきました。ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。

さて、いよいよ入試シーズンの到来です。11月からは、学校推薦型選抜の出願も開始となりました。12月以降も様々な入試を予定していますので、多くの皆さまからのご出願をお待ちしています。

入試日程及び募集要項等の詳細については、下記のQRコードから本学ホームページ「入試情報」へアクセスしてください。進学相談会などのイベント情報はこちらに掲載しています。

■ 問い合わせ先

佐久大学入試広報課

TEL.0267(68)6680

E-mail.admission@saku.ac.jp



入試情報はコチラ

寄附金のお願い

本学園では、高等教育機関としての社会的使命を実現するために、ご寄附をお受けしております。ご支援を賜った方々のご厚志に感謝し、学内には寄附者銘板を掲げご芳名をしるし、顕彰させていただいております。今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募集金額 個人：一口 3,000円より

法人：特に定めない

※税法上の優遇措置が適用されます。

※詳細につきましては、本学ホームページまたは担当（総務課）までお問合せください。

<https://www.saku.ac.jp/about/donation/>

TEL.0267(68)6680 E-mail.soumu@saku.ac.jp

図書館へ点訳絵本を寄贈しました

人間福祉学部ヒューマンケア情報論(2年次選択科目)の授業では、「障害者に対する補助・代替コミュニケーション」のひとつとして《点字》を学び、実際に数冊の絵本を点訳しました。

学生が初めて点訳した絵本は、本学図書館の蔵書とし、佐久市立中央図書館にも寄贈いたしました。



編集後記

佐久の薫風第19号をお読みいただきましてありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染が、2020年1月に国内で最初に確認されてから爆発的に感染が拡大し、今年になって5月に感染症法上2類から5類に変更となりました。そのため、タイへの研修、海外からの研修生の受け入れ、佐久市のイベントへの参加などができ、さらに大学祭は4年ぶりに地域の皆様に参加していただき開催しました。この学園通信でも元気な学生や大学の様子を紹介することができました。

最後に記事や情報を提供していただいた学生や教職員の皆さまに感謝申し上げます。

佐久大学公式SNS

Instagram



Facebook



LINE

